

も、云く「日本一州、圓機純一、朝野遠近、同皈一乘、緇素貴賤、悉期成佛」(一乘要決)と、斯の如く、滅后二千年の間に、各時國を異にして出でてたる人師の、本化出現の豫言に就て、其軌を一にせる恰も符節を合せしが如きは、げに、不可思議の現象には非ずや。法華經の約束は眞なりき。人師の豫言も亦實ありき。時末法に入りて七百十一年、後五百歲鬪諍堅固の秋に當りて、本佛の勅命に送られし本化上行菩薩は、幾多の人々の豫言に迎へられて、月氏の東方の小國、沙車の東北に方れる日本、東海安房の一漁村、小湊の浦に降誕し給ひぬ。

貞應元年壬午二月十六日の午の刻、あゝ、此日は本化降誕の聖日なりき。末法の佛使は、釋尊入滅の明日、二月十六日を以て、旭日の光明を浴び春鶯の尊き法聲に迎へられて、降臨ましませり。地神は歡喜して清泉を湧出し、龍神諸天は、喜悅して、小湊の海濱に青蓮華を咲かかめ、此聖日を紀念し玉へり。あゝ、日蓮の御名を以て、此世に

降誕し玉へる本化大聖。あゝ、本佛の智慧と慈悲とを以て、末法五濁の闇を照し玉ふ吾宗祖。世界人類の思想と信仰とは、唯、大聖の權威によつてのみ統一せられ、世界人類の心靈は、唯、吾祖の光明に照されてのみ救濟せられなん。

新春のさげび

鈴木本開

た互共が、此の世に處して行くには、どうしても是の二大要素を缺てはなりません。そは何かと云ふに、即ち一には深く反省し、精しく研究し充分の覺悟を定めてをく事、二には大事に當つては其の身を犠牲にする決心をもつてゐる事であります、是の一方いづれでも缺ければ、危険猶更に兩方共に缺けたから、そは實際御話になりません。物質的の文明にのみよつて、人生の幸福を得られぬ事は、西洋諸國の實狀がよく証據立てゝをります、十六世紀頃から數百年間の努力を重て來て

さへ満足の出來ない文明であるのに拘らず、我國民が、わずか三四十年間に其の外形を模擬して、是に依つて、眞の幸福を得やうと考へたのは聊か不用意極まる事であります。

我々の一切の行爲を支配するものはかにか、我々の境遇を制し、運命に堪え行く所の力を與ふるものはなに乎。其れは云ふ迄もなく自己の精神一つであります。

慈父聖人は北海の寒島佐渡塚原三味堂に配流されて、降る雪は軒より高く、雷電ひまないやうな御生活、而も怨敵は充滿してをるが、御自身には日本第壹の富めるものと云はれて、其の元氣は驚くべき状態でありました。其の字書、其の文字は實に龍蛇の走る如く當時の意氣を想見せしめるの氣概があります、是れは何の故であるか、そは只其の心を法華經の信仰に托せられたが爲めに、外ならぬのであります。斯る洪大なる心の力を忘れて世人が専ら外界に幸福を焦り、満足を求めやうとするのが大なる不用意極まる過であります。



詞

藻

鷹取山

山内慧戒

鷹取山は大檀越波木井實長公が、身延山と俱に宗祖大聖人へ奉獻せし山なり、北に身延山と相對して、西には春木川の上に七面の高山あり、南は高峰雲に蓋はれ、蛇々として遠く駿河に至る、日本三急流の一なる富士川を境に、天子が岳、名聲赫々たる富士の高嶺は、屹然として東に聳立す、往年、甲斐の領主武田信玄が、身延に牙營を築城せんとて、身延山を攻めしは、此鷹取山あるに依る歟。

無數の杉樹蒼鬱として其蔭暗く、鬱蒼たる長梢交に垂れ、綠濃く山勢急峻にして登山の難大なり。